好きを叫ぶ

中　三

最近、ジェンダーレスという言葉をよく耳にする。ジェンダーとは、社会的・文化的につくられる性区別のことを指しており、すなわちジェンダーレスとは、男女の境界をなくすという考え方のことである。

私たち学生に身近なものだと、ジェンダーレス制服というものが挙げられるだろう。男女問わず、ズボンかスカートどちらかを選べるようになった学校は、今どんどん増えてきている。

私の通っている中学校でも、女子でズボンを履いている人がいる。初めて見たとき、すごく格好いいと思った。そんなジェンダーレス制服を軸に、普段の服装、髪型にもふれながら、男女の服装について考えていこうと思う。

そもそも、最近になるまでジェンダーレス制服が採用されなかったのには訳があると考える。それは、「男子はズボン、女子はスカート」という固定観念による反対が多かったのではないか。ズボン・スカートから少し離れてしまうが、例えば、男は青、女は赤という昔からの考え方がある。小学校入学時、ランドセルを買うときも、その考えに縛られ、子供たちが背負っていくのは大抵二～三色であった。今までの歴史の中で、いつどこでそのような考え方ができたのかは分からないが、一度広まった考え方によって、それが正しい考えだと植えつけられてしまっている。仕方がない部分もある。長い間の考え、固定観念はなかなか拭えない。けれどもう時代は令和だ。男子は青でズボン、女は赤でスカート。時代遅れで古い考えだと思う。色や服装を性別で区別され、自由に服を着られないのは嫌だ。生徒たちの強い希望と時代の流れと考え方の変化によって、ジェンダーレス制服は多くの学校で採用された。今後全国、いや全世界で全ての人が賛成できるような世の中になってほしいな、と思った。

普段の服装についてのジェンダーレスを考えてみよう。男性でヒールを履いている人をみんなはどう思うのだろう。私は格好いいな、と思う。ヒールの高いくつを履いて、背すじをシャンと伸ばして歩いている男性を街中で見たとき、自然と

私も背すじが伸びている。好きな服を着て、好きなくつを履いて、それも好きな色を選んでいて、素敵だ。想像するだけで幸せで、素晴らしい。服やくつは自分のよさを引き出すために着ているのだと思っているから、好きなものを身に付けて外へ飛び出し、街の一部になることは、どんな流行りものを着るよりも美しい。

服やくつだけでなく、好きなものを身に付けることは、誰にとっても安心と自信をもたらしてくれるだろう。お気に入りのリップ、宝物の時計。大切で大好きなものこそ、自分に輝きを与えてくれる。今までは、それが性別によって区別されてしまっていた。けれど、自分を引き立たせるものを、自分は男、女だからという理由で限られた中から選びたくない。好きなものに性別は関係ないのだ。

次は、髪型について考えてみる。学校によっては、男子の長髪が認められていないところもあるそうだ。髪の毛は自分の一部で、命の一部だ。だから切りたくない、と言う人もいるらしい。男でも髪を長くして、ピンをとめたり、結んだりしたいと思ってよいと思う。学校の校則は、これから男女を分けて記すものが減っていけばいいなと思った。

制服、普段の服装、髪型と三つの視点からジェンダーレスについて考えてみたが、とにかく私が思ったことは、男女の区別無く好きなものを好きでいたいということだ。男性がかわいいものが好きだったり、女性がアクティブな仕事を好んだりすることは、何も悪くないし、おかしいことではない。そもそも、人を男か女かで判断することが多いのは間違っているのではないか。男の子だから泣いちゃダメ、女の子だからおしとやかに。そうではなくて、一人一人を見て、その人に対しての注意をするべきだ。

今後、私の学校でも、ジェンダーレス制服がもっと広まるだろう。街中でヒールを履いた男性をよく見るようになるだろう。自分の好きに素直になって、毎日笑顔で過ごして、幸せに生きる人が増えるだろう。人の好きという気持ちは、美しく、そして、どんな感情よりも強く折れず、その人の中に生き続ける。今や人生百年時代。好きに囲まれて自分を愛しながら、満たされた時間を生きたい。

性別なんて関係ない。好きなものは好きでよいのだ。これから、世界中の人たちが背すじを伸ばして歩き続けられるようになりますように。私も私の好きを叫ぶ。